

山梨県固定資産評価審議会の概要

- 1 設置の根拠 地方税法第401条の2、山梨県附属機関の設置に関する条例
- 2 設置の趣旨 固定資産評価の適正・均衡の確保
- 3 組 織 委員11名（国及び市町村の職員並びに学識経験者）
- 4 任 期 2年（令和元年9月1日～令和3年8月31日）
- 5 勤務態様 非常勤
- 6 会長選任 委員の互選
- 7 事務局 山梨県総務部市町村課
- 8 審議事項 固定資産の評価に関する事項で、知事が意見を求めたもの
 - ・固定資産評価基準の細目（提示平均価額、基準地価格）に関すること
 - ・固定資産の価格等の修正に関する知事の勧告に関すること
 - ・その他固定資産の評価に関する事項
- 9 審議の状況
 - 平成26年度
 - ① 平成26年11月26日
平成27年度固定資産（土地）の評価替えに係る基準地価格について
 - ② 平成27年2月24日
平成27年度固定資産（土地）の提示平均価額について
 - 平成27年度
 - ① 平成28年2月24日
平成28年度固定資産（土地）の提示平均価額について
 - 平成28年度
 - ① 平成29年2月21日
平成29年度固定資産（土地）の提示平均価額について
 - 平成29年度
 - ① 平成29年11月27日
平成30年度固定資産（土地）の評価替えに係る基準地価格について
 - ② 平成30年2月26日
平成30年度固定資産（土地）の提示平均価額について

令和2年度

- ① 令和2年11月26日～令和2年12月10日（書面審議）
令和3年度固定資産（土地）の評価替えに係る基準地価格について

- ② 令和3年2月26日～令和3年3月8日（書面審議）
令和3年度固定資産（土地）の提示平均価額（案）について

山梨県固定資産評価審議会委員名簿

任期 令和元年9月1日～令和3年8月31日

	氏名	区分	備考
会長	長田 幸夫	学識経験者	株式会社山梨中央銀行常務取締役
職務 代理者	窪田 修	学識経験者	山梨県不動産鑑定協同組合
	黒羽 雅子	学識経験者	山梨県立大学国際政策学部特任教授
	小林 恵	学識経験者	山梨県司法書士会
	佐々木 かずみ	学識経験者	東京地方税理士会山梨県会
	竹野 光美	学識経験者	山梨県土地家屋調査士会
	松野 範子	学識経験者	山梨県建築士会女性部会相談役
	許山 敏	学識経験者	山梨県森林組合連合会参事
	依田 健人	学識経験者	山梨県農業会議事務局長
	佐伯 章二	国	甲府税務署長
	有賀 研一	市町村	甲府市税務統括監

※敬称略

※五十音順（行政機関は除く）

根拠法令

○地方税法

(道府県固定資産評価審議会)

第四百一条の二 道府県に、道府県固定資産評価審議会を設置する。

- 2 道府県固定資産評価審議会は、次項各号に掲げる事項その他固定資産の評価に関する事項で道府県知事はその意見を求めたものについて調査審議する。
- 3 道府県知事は、次の各号に掲げる事項については、道府県固定資産評価審議会の意見をきかなければならない。
 - 一 道府県知事が定める第三百八十八条第一項の固定資産評価基準の細目に関すること。
 - 二 第四百十九条第一項の勧告
- 4 道府県固定資産評価審議会の委員は、国の関係地方行政機関の職員、当該道府県の職員及び当該道府県の区域内の市町村の職員並びに固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから、道府県知事が任命する。
- 5 前項に定めるもののほか、道府県固定資産評価審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、当該道府県の条例で定める。

○山梨県附属機関の設置に関する条例

(趣旨)

第一条 この条例は、法令又は他の条例に別に定めのあるものを除くほか、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第三百八十八条の四第三項に規定する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長等)

第五条 附属機関に、規則で定めるところにより、会長又は委員長（以下「会長」と総称する。）及び副会長又は副委員長（以下「副会長」と総称する。）を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理し、附属機関を代表する。
- 4 略
- 5 副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第六条 附属機関の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 会議は、規則で定める場合を除くほか、委員の二分の一以上が出席しなければ、開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

○山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則

(趣旨)

第一条 この規則は、山梨県附属機関の設置に関する条例（昭和六十年山梨県条例第三号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第四条 条例第五条第一項の規定により、附属機関（山梨県社会福祉審議会及び感染症診査協議会を除く。）に会長を、山梨県社会福祉審議会及び感染症診査協議会に委員長を置く。

土地評価替えの流れと固定資産評価審議会

基準地価格【3年に1度審議】
 ※直近ではH29年11月に審議

基準地とは

土地評価の水準と市町村間の均衡を確保するための指標となるものであり、各市町村ごと、地目別に、それぞれ1箇所設けられている。

宅地

他の宅地の評価の基準として使用される標準宅地のうち、各市町村において最高の路線価を付設した街路に沿接する標準宅地（市街地宅地評価法）又は標準宅地の中で最高の価格となるもの（その他の宅地評価法）

田・畑

地勢・土性・水利等の状況からみて上級に属する標準地

山林

地勢・土層・林産物の搬出の便等の状況からみて上級に属する標準地

市町村長

基準地価格の報告（価格調査基準日 R2.1.1）

報告

R2.5

都道府県間の均衡確保

指定市町村の基準地の適正な時価について検討・所要の調整
 【地方財政審議会固定資産評価分科会】

総務大臣

通知

R2.9

県内市町村間の均衡確保

指定市町村との均衡に配慮

都道府県知事

指定市町村以外の市町村の基準地の適正な時価について検討・所要の調整
【固定資産評価審議会】 ※R2.11.26~R2.12.10書面開催

通知

R2.12

市町村長

調整された基準地価格を基準として、すべての筆の価格を決定

提示平均価額【3年に1度審議】
 ※毎年審議を行っていたが、平成30年度より、原則として基準年度のみ(3年に1度)審議を行うこととされた。
 ※直近ではH30年2月に審議

提示平均価額とは

市町村間の土地の評価の均衡を確保するための指標となるもので、市町村ごとに地目別に定められる。

算出方法

提示平均価額 = 総評価見込額 ÷ 総地積

今回審議会 →

市町村長

総評価見込額の算定額等の報告

報告

R3.1

都道府県間の均衡確保

指定市町村が算定した総評価見込額を検討・修正し、その総地積で除して提示平均価額を算定
 【地方財政審議会固定資産評価分科会】

総務大臣

通知

R3.2

県内市町村間の均衡確保

指定市町村との均衡に配慮

都道府県知事

指定市町村以外の市町村が算定した総評価見込額を検討・修正し、その総地積で除して提示平均価額を算定
【固定資産評価審議会】 ※直近ではH30.2.26に開催

通知

R3.3

市町村長

各筆の評価額の確定
 ↓
 固定資産課税台帳への登録
 ↓
 納税通知書・課税明細書の送付

(参考)山梨県の指定市町村 宅地—甲府市 田—南アルプス市 畑—甲州市 山林—南部町

提示平均価額の意義について

1 評点式評価方法

土地（宅地、田、畑、山林）については、「評点式評価方法」により、資産の価値を「評点数」により表す方法が採用されている。

「評点」は、資産価値の格差を点数により格付けしたものである。

土地・・・売買実例価額を基に標準地に評点数を付ける。

各筆の評点は、標準地の評点数に比準して付ける。

2 評価額の算定方法

$$\text{評価額} = \text{評点数} \times \text{評点一点当たりの価額}$$

3 評点一点当たりの価額の算定方法

$$\text{評点一点当たりの価額} = \frac{\text{「提示平均価額」} \times \text{総面積}}{\text{総評点数}}$$

4 提示平均価額の算定方法

$$\text{「提示平均価額」} = \frac{\text{総評価見込額}}{\text{総面積}}$$

※土地については地目ごと

5 提示平均価額の意義

(1) 評点一点当たりの価額の算定の基礎

前述のとおり、固定資産評価基準上、固定資産の具体的な評価額を算出するため、評点一点当たりの価額の決定が不可欠であり、これは提示平均価額を基に決定される。

(2) 各市町村の評価水準の目安

提示平均価額は、単位面積当たりの価額を示すものであり、これにより各市町村の評価水準のひとつの目安となるものであり、市町村間の評価の均衡を確保する役割も果たしている。

6 提示平均価額の提示

(1) 市町村の区分

① 指定市町村 = 総務大臣

ア 宅地 各都道府県庁所在の市

イ 田、畑及び山林 各都道府県、地目別に一つの市町村

※ 宅地：甲府市、田：南アルプス市、畑：甲州市、山林：南部町

② その他の市町村 = 知事

指定市町村以外の市町村

(2) 提示内容

土地

宅地 1 m²当たりの価額 (円/m²)

田、畑及び山林 千m²当たりの価額 (円/千m²)

(3) 提示の手続き

指定市町村・・・地方財政審議会を経て、総務大臣が提示

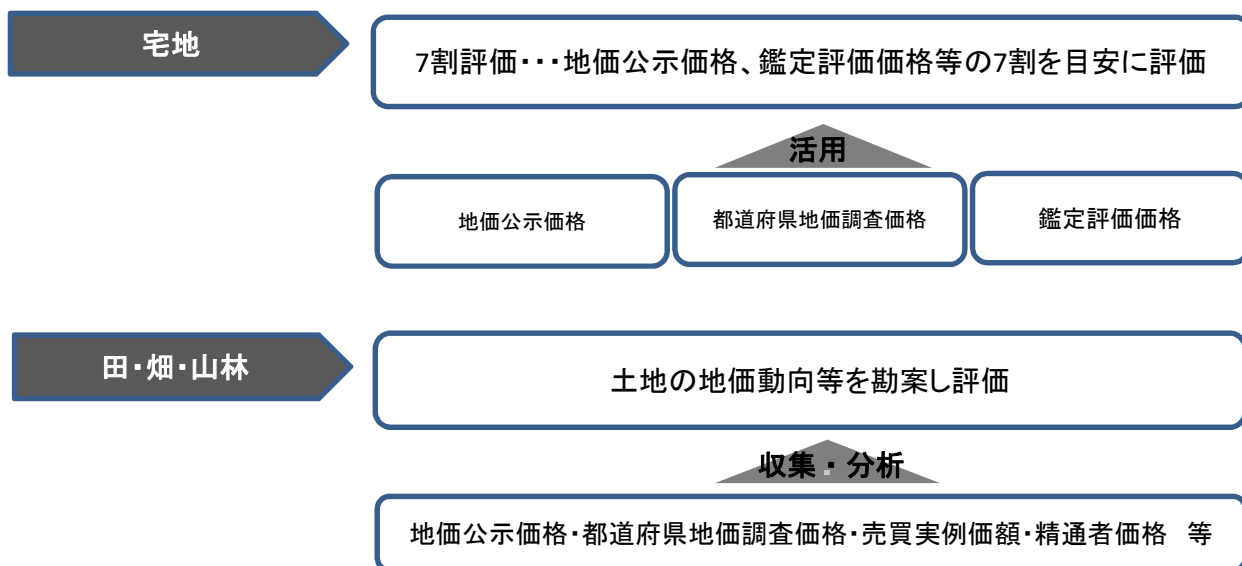
その他の市町村・・・県固定資産評価審議会を経て、知事が提示

令和3年度の土地評価替えの留意事項

1 土地評価の均衡化・適正化の推進

宅地の評価については、平成6年度評価替えより導入されている、地価公示価格、不動産鑑定士等による鑑定評価から求められた価格等の7割を目途として評価額を評定する「7割評価」を令和3年度評価替えにおいても実施し、評価の均衡化・適正化を引き続き推進する。

また、宅地以外の土地（田、畑、山林）についても、地価動向等を勘案しながら評価の均衡化・適正化に努める。

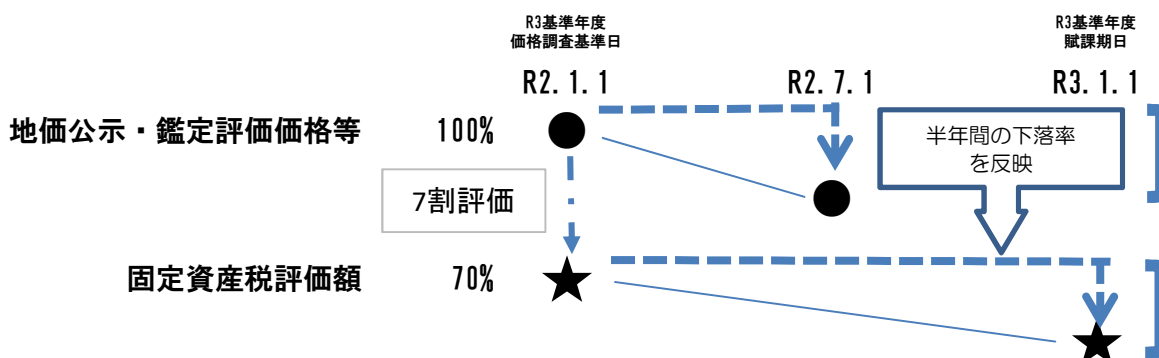


2 市町村間の評価の均衡確保

鑑定評価価格は、宅地の固定資産税評価額の基礎となるものであることから、都道府県内での調整すべき事項等について、情報交換を十分行い、不均衡が生じないように努める。

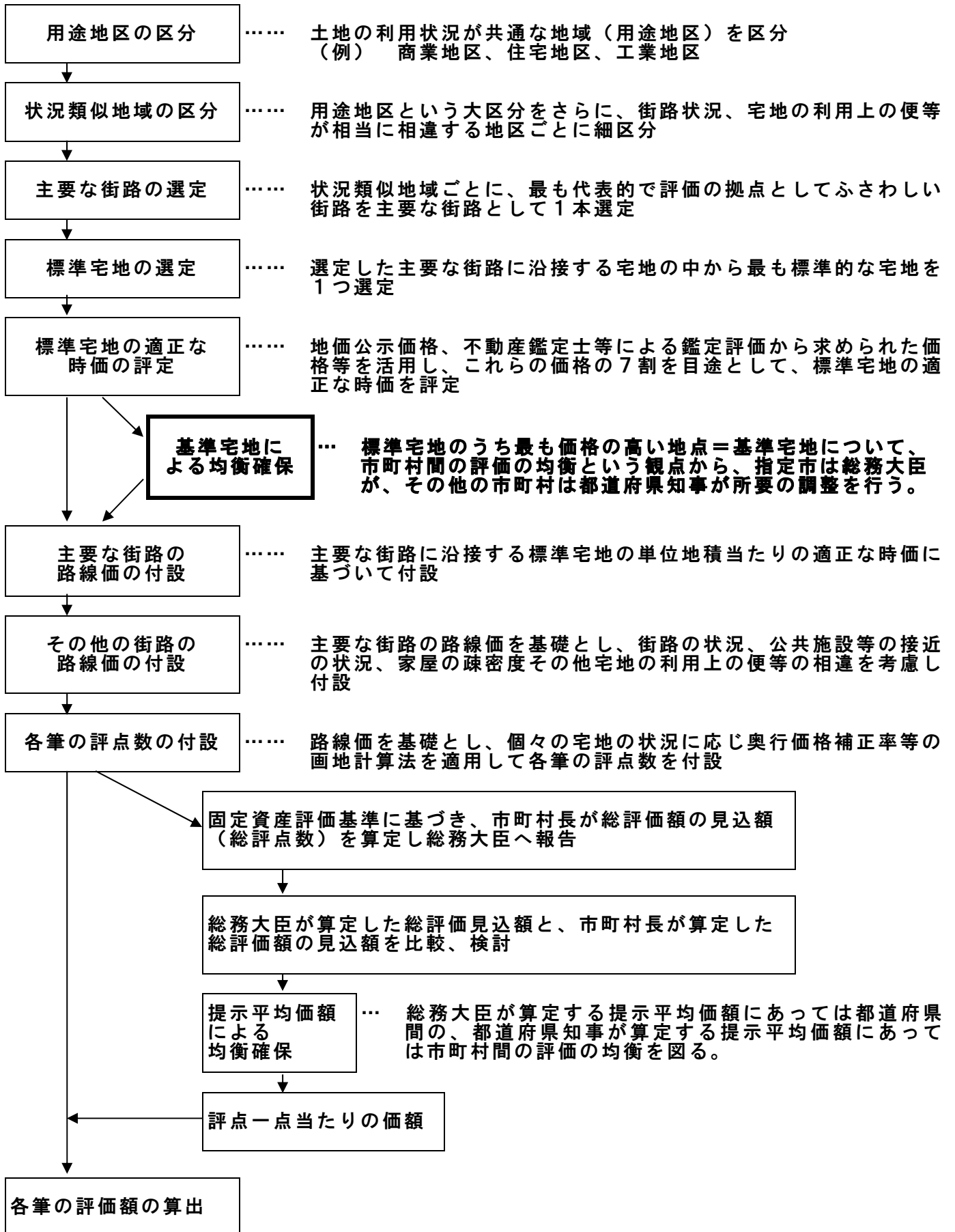
3 地価下落地域における宅地の価格の修正

地価の下落基調が続いていることから、令和2年1月1日（価格調査基準日）から7月1日までの半年間の変動率を評価額に反映させる措置が講じられている。



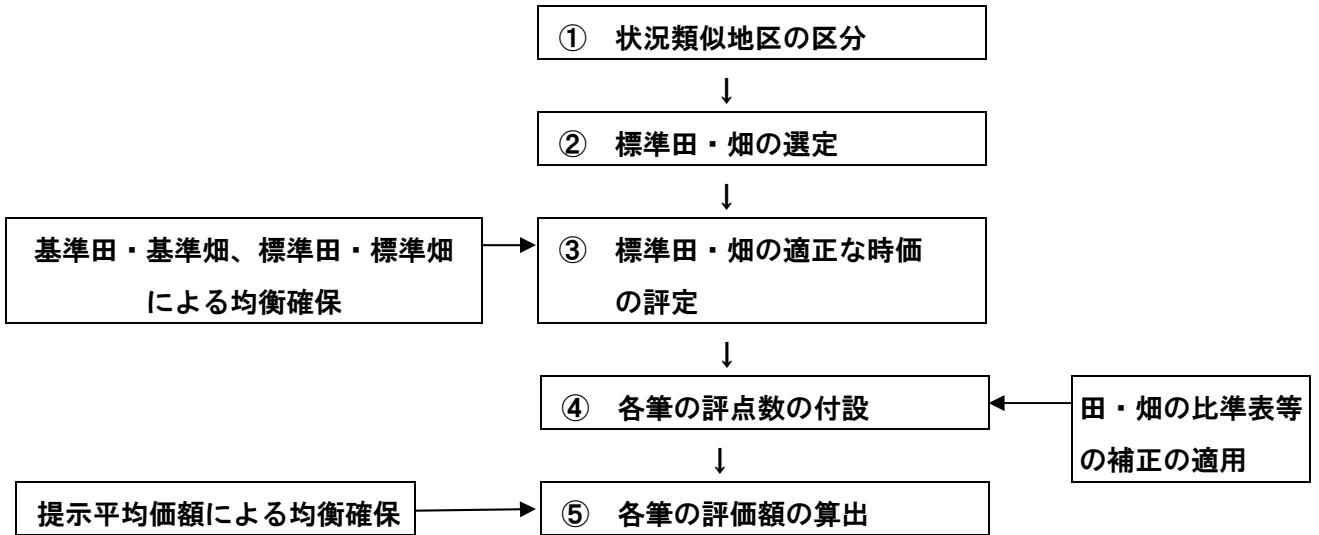
宅地の評価方法

[参考] 市街地宅地評価法



農地（田・畑）・山林の評価方法

一般農地（田・畑）の評価方法



一般山林の評価方法

